



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

薬と仲良くつきあうために

病気の治療では、薬物療法が中心であり、有効な手段といわれています。

しかし、使い方を誤ると、かえって健康を害することがあります。

今回は、「薬の副作用とは？」「薬に影響を与える因子にはどのようなものがあるか？」をお話しします。薬を安全に服用するための一助にしていただければと思います。

薬の副作用

副作用は大きく3つのタイプに分けられます。1つめは、薬の効果が強く出過ぎたためにおこるものであり、血圧の薬でのめまいやふらつき、糖尿病薬での冷や汗や震え(低血糖症状)などです。服用方法や、お薬の量は必ず守ってください。2つめは体質によるもので、薬を異物として反応し、アレルギー反応をおこすものです。同じ薬でアレルギーを繰り返し返

すと重症化することがあるので、必ず医師、薬剤師に伝えてください。

3つめは薬の作用によるもので、痛み止めによる胃障害やむくみなどです。薬の併用によっても副作用をおこすことがあるので、服用している

薬はすべて医師、薬剤師に報告し、他人の薬は服用しないでください。

副作用の予防、早期発見のために、日頃から体調の変化に気を付け、定期的に血液検査をうけていただくことをお勧めします。

薬の効果に影響する因子

薬に影響する因子はたくさんあります。ほとんどの薬が、肝臓にある酵素のCYP(シップと読みます)で代謝(薬が化学変化をおこし、別のもとなる)されるのですが、この酵素の遺伝子のタイプによって、薬の効き方に差がでることが報告されています。また健康食品や、サプリメントも飲み合わせによっては薬の作用に影響したり、病気が悪化した

りすることがあるので医師、薬剤師

に相談してから使用してください。
生活習慣(喫煙や飲酒)も薬の効果に影響します。アルコールと睡眠薬の併用は、呼吸抑制などの危険な副作用を起こすことがあるので一緒に飲まないでください。

ある薬が、別の病気に影響して症状を悪化させたりもするので(前立腺肥大や緑内障の患者様が、風邪薬や睡眠薬などを服用する時)市販薬を購入する時は、治療中の病名も伝えてください。

薬と仲良くつきあうためには、おくすり手帳などを上手に活用して、ご自分の服用している薬の情報(名前や作用、気をつける副作用など)をきちんと把握し、服薬方法や、量を守って服用してください。

疑問に思うことや、不安に思うことは、かかりつけの医師、薬剤師にお尋ねください。納得した上で、安心して服用されることが大切です。

(東灘区 東神戸薬局 A)